

支援テーマ

心疾患診断アシスト機能付遠隔医療対応聴診器「超聴診器」の海外展開と知財戦略

企業概要

所在地	鹿児島県鹿児島市東千石町2-13 302号
代表	代表取締役CEO 小川 晋平
ウェブサイト	https://ami.inc/
従業員数	25名
資本金	1,000万円
設立	2015年
事業内容	心疾患診断アシスト機能付遠隔医療対応聴診器「超聴診器」を開発



※超聴診器は開発中であり、未承認医療機器です。

優先課題

課題1 ビジネスモデルの検討とスケールアップ（米国）

特に米国での事業展開におけるビジネスモデルと必要なパートナーがイメージできていない

課題2 競合他社との差別化

競合他社・競合製品との差別化要素（強み）、どのような価値に繋がるかが明確化できていない

課題3 知財戦略

大学・医療機関との権利帰属、利益分配、他社の権利侵害、意匠関連等が十分に検討できていない

伴走支援内容

第1回 ビジネスモデル（米国）の検討

- ・日本・米国を含めた事業スケジュールの確認
- ・ビジネスモデル（米国）の検討

第2回 競合他社との差別化要素（強み）の検討

- ・米国でのビジネスモデルの再検討
- ・競合他社との差別化要素（強み）の検討
- ・知財（特許）の共同出願の是非の検討
- ・契約・データの取り扱いに関する検討

第3回 知財戦略①

- ・米国ビジネスモデルの精緻化
- ・超聴診器の価値の言語化
- ・強みを活かした米国ビジネスモデルを前提とした知財検討

第4回 知財戦略②

- ・製品デザインに関する検討（Looks likeプロト、Feels likeプロト、Works likeプロト等のタイプを分けた検証等）
- ・知財に関する深掘り検討（ノウハウ、データ管理も含む）



対面支援の様子



オンライン支援の様子

伴走支援の成果

- ・ 上市に向けた製品設計（デザイン含む）の検討
- ・ 海外競合企業との比較検討
- ・ 米国をターゲットとした遠隔医療ビジネスの課題検討
- ・ 知財課題（特許、商標、意匠、ノウハウ、データ）の検討

支援先企業の声



AMI株式会社
代表取締役CEO
小川 晋平 氏

■ 今回の支援を通して得た気づき・学び・社内の変化

- ・ 米国の医療を取り巻く背景や医療ニーズを具体例を挙げてもらいながらレクチャーして頂いた。本支援では米国進出に向け、知財戦略だけでなく、課題解決型のビジネスモデルを再考する機会となりました。
- ・ 社内メンバーについて、どうしても目先の課題が優先され近視眼的になりがちですが、本支援ではグローバルな視点で話して頂いたこともあり、今後の目指すべき世界観を再認識することができました。

■ 今後の展望・方向性（知財経営を中心に）

- ・ まずは国内での薬事承認を目指します。その後、市場を獲得しながら、その実績をふまえて海外展開していく予定です。当社の知財戦略としては、ハード・解析ソフト・診断アルゴリズムと領域を限定せず幅広く特許取得し、海外展開をふまえ、コア技術となる特許の周辺特許を積極的に出願していくつもりです。また、海外進出に向けて競合他社を把握すること、そしてその技術レベルや知財戦略をリサーチすることでビジネスプランをブラッシュアップしていきたいです。

支援チーム



支援チームリーダー
株式会社シクロ・ハイジア
代表取締役CEO
小林 誠 氏

支援チームリーダーより

- ・ 今回の支援以前から、知財に関して意識高く経営をされていたりしました。
- ・ 日本展開に適したモデルでの戦略だけでなく、並行して米国展開に適したモデルでの戦略を検討いただいたことで、今後の海外展開に向けた課題も見えてきたと思います。
- ・ 素晴らしい技術ですから、その特徴をビジネスに活かし強みに変えて、グローバルな事業展開が実現されることを期待しています。



支援チーム専門家
スタンフォード大学
主任研究員
池野 文昭 氏

医療機器の海外展開に関する助言を担当

オブザーバー

INPIT鹿児島県知財総合支援窓口、経済産業省 九州経済産業局